

真宗本廟(東本願寺)案内図



真宗本廟へのアクセス

- JR京都駅から徒歩7分
- 市バス「烏丸七条」バス停から徒歩1分
- 地下鉄烏丸線五条駅から徒歩5分

渉成園へのアクセス

- 東本願寺から徒歩5分
- JR京都駅から徒歩10分
- 市バス「烏丸七条」バス停から徒歩5分

開門・閉門時間

期間	開門	晨朝(おあさじ)・法話	閉門
3月～10月	5:50	7:00	17:30
11月～2月	6:20	7:00	16:30

真宗大谷派(東本願寺)参拝接待所

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る

TEL.075-371-9210

FAX.075-371-9204

東本願寺ホームページ

東本願寺

検索

<https://www.higashihonganji.or.jp>



真宗大谷派本廟部(渉成園)
<https://facebook.com/shosein>

SHINSHU HONBYO

真宗本廟 (東本願寺)

HIGASHI HONGANJI



真宗大谷派
東本願寺
Higashi Honganji
Shinshu Otanba

ようこそご参拝くださいました

しんしゅうほんびょう 真宗本廟(東本願寺)は、しんしゅうおおたに は 真宗大谷派の本山です。

しゅうそ しんらんしやうにん 浄土真宗の宗祖、親鸞聖人(1173~1262)は、今から約850年前の平安時代末期に生まれ、90年の生涯を送られました。聖人によって顕かにされた浄土真宗の教えは、老若男女を問わず、全ての人々を浄土に救いとるという誓い(本願)をたてられた阿弥陀如来の救いを明らかにするもので、長い歴史を経て今日に至るまで伝えられています。

ごしんねい ごえいどう 親鸞聖人の御真影を安置する御影堂と、御本尊・阿弥陀如来を安置する阿弥陀堂を中心とする境内は、江戸時代に四度の火災に遭い、焼失しましたが、そのたびに全国のご門徒の尽力で再建されてきました。現在の建物は、明治時代に再建されたもので、御影堂、阿弥陀堂、御影堂門などの6棟が国の重要文化財に指定されています。

おもな年中法要・行事

しゅうしやう え 修正会

1月1日~7日

しゆん き しゅう き ひ がん え 春季・秋季彼岸会

春分・秋分の日の
前後3日間を含む期間

春の法要

4月上旬

りつきやうかいしゅう き ねん び 立教開宗記念日

4月15日

う ら ぼん え 盂蘭盆会

7月14日・15日

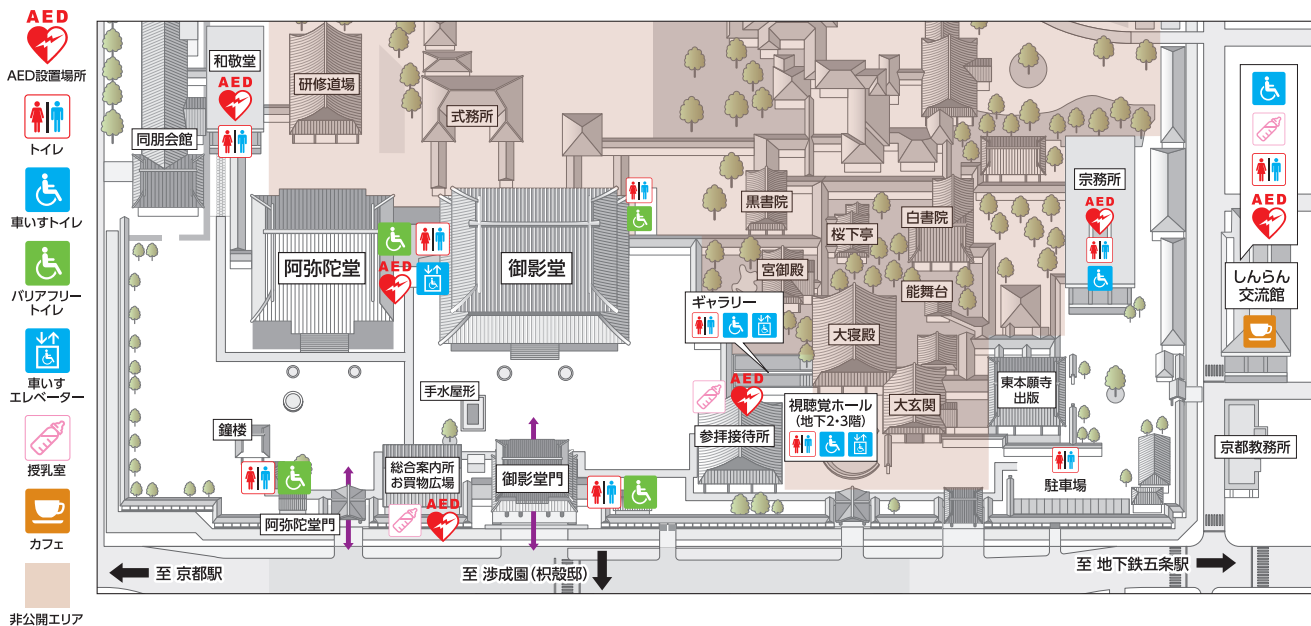
ほう おん こう 報恩講

11月21日~28日

すず はら お煤払い

12月20日

真宗本廟(東本願寺)境内図





ごえい どう
御影堂 1895(明治28)年再建

世界最大級の木造建築で、宗祖親鸞聖人の御真影(御木像)が安置されていることから、御影堂と呼ばれています。

御真影の左右には、歴代門首の御影、御本尊・阿弥陀如来のはたらきをあらわす「帰命尽十方無碍光如来」の十字御名号と、「南無不可思議光如来」の九字御名号をお掛けしています。

真宗本廟(東本願寺)は、親鸞聖人の御真影を安置した「廟堂」がその起源であることから、本堂(阿弥陀堂)よりも御影堂が大きく、境内の中央に建てられています。



あみだ どう
阿弥陀堂 1895(明治28)年再建

御本尊・阿弥陀如来を安置する阿弥陀堂は、一般のお寺の「本堂」にあたります。全ての衆生(生きとし生けるもの)を救おうとする阿弥陀如来の願いと功德が成就した世界(浄土)を表すため、内陣(堂内の奥)は、全ての存在に光(如来のはたらき)があたることが願われ、総金箔で荘厳(おかざり)されています。

御本尊の左右には、日本に浄土の教えを伝えてくださったインド・中国・日本の七人の高僧と、親鸞聖人が「和国の教主」とあおがれた聖徳太子の御影が掛けられています。



ごえい どうもん
御影堂門 1911(明治44)年再建

人々を浄土真宗の教えが説かれる道場である御影堂へと導く門です。楼上の堂内には釈迦如来・阿難尊者・弥勒菩薩の三尊像が安置されています。これは、お釈迦様が阿難尊者と弥勒菩薩に真宗の根本經典である『仏説無量寿経』を説かれたことを表しています。また、門に敷居がないのが特徴で、全ての衆生が分け隔てなく浄土の教えに触れてほしいという願いが表現されています。

東本願寺お買い物広場



お念珠やお線香、そしてお菓子などははじめとして、東本願寺オリジナル記念品や親鸞聖人の教えを伝える書籍等を販売しています。

【営業時間】

(3月～10月) 9:00～17:00
(11月～2月) 9:00～16:00

お問い合わせは 株式会社 願生舎
TEL.075-371-1715

あんじょうのごえい
安城御影

親鸞聖人83歳の姿を描いたとされる



たん じょう とく ど
誕生・得度

しんらんしょうにん
親鸞聖人は、今から約850年前(1173(承安3)年)、京の地に生まれられました。平安貴族の政治が終わりを迎えようとする時代でした。9歳のとき、青蓮院しょうれんいんで出家得度して仏門に入られ、その後、比叡山ひえいざんに登り勉学に励まれます。しかし、そこでは苦しみ悩みをのり超える道を見つけることができず、比叡山での修行に終止符を打ち、法然上人の門をたたかれます。29歳の時のことでした。

え しん
回心

法然上人は、阿弥陀如来に帰命して南無阿弥陀仏と称えるならば、だれもが平等に煩惱の身のままで救われると説かれました。上人によってわかりやすく、善人も悪人も、老いも若きも、男も女も、生まれや才能も問わず、南無阿弥陀仏を称えることによって成り立つ救いが明らかにされました。煩惱をなくすために修行を重ねてきた親鸞聖人にはたいへんな驚きでした。これ以降、念仏をよりどころとして生きていかれます。

ほう なん
法難

念仏による平等の救いを説く教えは、さまざまな価値観や束縛から多くの人々を解放しました。しかし同時に、他の仏教諸派や権力者らとの間に摩擦を生ずることになりました。そして親鸞聖人35歳(1207(承元元年))の時、朝廷から念仏を止めるようにとの命令が下さ

れ、法然上人のお弟子4人が死罪となり、法然上人をふくめて8人が流罪となります。親鸞聖人も罪人として越後(現在の新潟県上越市)に流されます。これが法然上人との最後の別れとなり、ふたたびお会いすることはできませんでした。

きょう け
教化

この流罪を契機に「愚禿釈親鸞」と名告り、恵信尼公をともなって配所におもむき、家庭生活を営む中で念仏の教えに生きていかれます。5年の年月を経て罪はゆるされますが、しばらくは越後にとどまり、その後、関東地方にむかわれます。そして約20年にわたり、念仏の教えを多くの人々に語り伝えていかれました。

その後、親鸞聖人は6歳ころから京都に帰られます。関東の門弟とはお手紙や書物を書き送るなど、交流を続け、80歳をこえても、たくさんの書物を執筆し続けられました。それは法然上人をとおして出遇われた平等の救いの道を浄土の真宗と掲げ、それを後世の人々に伝えるためでした。

にゅう めつ
入滅

親鸞聖人は1262(弘長2)年11月28日、90歳の生涯を閉じられました。

あきら
念仏に生き、浄土の真宗を顕かにし続けられた一生でした。

「親鸞聖人のご生涯」展のご案内

参拝接待所ギャラリーでは、宗祖親鸞聖人のご生涯をパネルにて紹介する「親鸞聖人のご生涯」展を常設展示しています。その他にも年に数回さまざまなテーマで企画展示を行っています。



法話のご案内

晨朝法話 ●会場：御影堂
●毎日 晨朝(7:00から)後～

真宗本廟法話

●会場：真宗本廟視聴覚ホール(参拝接待所地下2階)
または参拝接待所仏間

●毎日2回 ①10:10～ ②13:10～

※報恩講期間中(11月21日～27日)は、御影堂にて法話がございます。

しんらん交流館定例法話

●会場：しんらん交流館・すみれの間

●毎日 14:00～(毎月12日・27日は10:00～)
(毎月13日・28日は14:30～)

※火曜日休会。その他行事により休会場合があります。

東本願寺 日曜講演

●会場：しんらん交流館・大谷ホール
●毎週日曜日 9:30～11:00

※一部休会場合があります。

親鸞聖人の教えから
人生の課題をいただき、
日々歩まれている
方々の講演会です。

公開講演会

●会場：しんらん交流館・大谷ホール
●毎月1回

「生老病死」をテーマに、
さまざまな現場で活躍
している方を講師に招き
開催しています。

※法話会場の詳細は、1・2ページの真宗本廟(東本願寺)境内図をご覧ください。

本願寺が東西に分かれるに至った事情には、1570(元亀元)年から1580(天正8)年まで、織田信長と本願寺が争った「大坂本願寺合戦(石山合戦)」が大きく関係しています。1580年、信長との講和をめぐり、大坂本願寺(現在の大阪城公園付近)



教如上人御影(五村別院蔵)

からの即時退去を決めた第11代・顕如上人と、徹底抗戦を訴えた子息の教如上人とで意見が対立し、家臣や門徒も分裂するような状況となりました。結局、顕如上人が大坂を退去して紀伊(和歌山県)鷲森に移った後も、教如上人は意見を共にする門徒らと大坂に籠城を続けました。そのため、父・顕如上人から義絶されます。教如上人は、約4ヶ月後にやむなく大坂を立ち退きますが、義絶の身で父に会うことはかなわず、東海・北陸地方を流浪することとなりました。1582(天正10)年6月、本能寺の変で信長がたおされた後、ようやく父子は和解し、その後、本願寺も京都に移転しました(現在の西本願寺の地)。そして顕如上人の死後、いったんは教如上人が本願寺住職を継ぎますが、約1年で信長の遺臣である豊臣秀吉から隠居を命じられ、弟の准如上人に譲職します。

しかし、その間も教如上人を慕う人々が数多くおられ、上人は本願寺住職と変わらぬような活動を続ける一方、徳川家康とも親交を結びます。そして1600(慶長5)年に起きた関ヶ原の戦いで実権を手にし、2年後に征夷大將軍となって幕府を開いた家康から土地の寄進をうけた教如上人が、新たに別立したのが現在の東本願寺(真宗本廟)です。

現在の境内地は約93,000㎡(約2万8千坪、甲子園球場の約2.5倍)あり、御影堂を中心とする諸建築は幕末におきた「蛤御門の変」による焼失後、明治時代に再建されたものです。

真宗教化センター しんらん交流館



大谷ホール

- 日曜講演
- 公開講演会等

すみれの間

- 定例法話

東本願寺文庫

- 閲覧室
- 絵本コーナー

【開館時間】平 日/9:00～18:00
土日祝/9:00～17:00

【休館日】毎週火曜日、12月28日～1月5日、8月13日～16日
※その他行事などにより休館する場合があります。



しんらん交流館ホームページ

しんらん交流館の催しや施設の使用についての情報を掲載しています。浄土真宗の教えにふれる読み物や動画も配信中国!

しんらん交流館

検索

URL: <http://jodo-shinshu.info/>

【しんらん交流館 企画調整局】 TEL.075-371-9208 (代表)

東本願寺から歩いて5分
京都駅から歩いて10分



しょうせいえん きこくてい とびちけいたいち
渉成園(枳殻邸)は、東本願寺の飛地境内地(別邸)で、国の
名勝に指定されています。石川丈山がつくりあげた広大な
池泉回遊式の庭園に、四季折々の見どころが散りばめられて
います。本山参拝の折には、ぜひともご参観ください。

開園時間(年中無休)

〈3月～10月〉9:00～17:00(受付は16:30まで)
〈11月～2月〉9:00～16:00(受付は15:30まで)

庭園の維持・保全のため、参観者お一人につき、500円以上(高校生以下お一人につき250円以上)の寄付金をお願いしており、500円以上ご志納いただいた方には、ガイドブックを贈呈しております。

四季折々の庭園を眺めながら
渉成園で食事をしませんか？



渉成園内の通常非公開のお部屋を使用し、お食事をいただくことができます。使用希望日の1ヶ月前までにお電話にてお申込みください。また、使用冥加金・仕出業者などの詳細については参拝接待所までお問い合わせください。

【参拝接待所】(団体参拝専用電話) TEL.075-371-9212



お齋 精進料理

通常非公開のお部屋にて
お召し上がりいただけます。

会場 東本願寺 書院

申込 ●2週間前までに参拝接待所へお電話にてお申込みください。

※満席の場合や日程の都合上、ご用意できない日がございますので、事前にお問い合わせください。

●当日分も若干数をご用意しております。

※9時から13時まで参拝接待所受付へお越しください。

冥加金 大人4,000円・子ども1,000円(対象:8歳くらいまで)
※お一人様よりお申込みいただけます。

【参拝接待所】TEL.075-371-9210

合掌御膳

真宗本廟奉仕のご縁となるよう、
ご参拝の折に懐石弁当を
お召し上がりいただけます。



会場 東本願寺 和敬堂

申込 7日前までに研修部へお電話にてお申込みください。

※満席の場合や日程の都合上、ご用意できない日がございますので、事前にお問い合わせください。

対象 10名以上の団体(定員50名)

冥加金 お一人1,200円

【研修部】TEL.075-371-9185